

新ICT利活用サービス創出支援事業(電子出版環境整備事業) 事業評価会

評価者のコメント

プロジェクト メタデータ情報基盤構築事業
代表機関 筑波大学
共同提案組織 インフォコム株式会社、株式会社インフォコム西日本、株式会社ナレッジ・シナジー、
 合資会社ゼノン、ロジカルウェブ株式会社、株式会社ジオ・ブレン

(1)これまでの実績に対する評価 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- レジストリーの必要性については十分理解でき、取り組みの先進性について高く評価する。
- ガイドラインは新しい試みで評価できる。具体的なメタデータの取り込みは試験的に行ってユースケースを作るとよかった。産業的貢献についてはもっと踏みこんでほしかった。
- メタデータ記述規則等の標準化仕様とメタデータ情報基盤システム「MetaBridge」の開発と実証実験は評価できる。
- 報告の完成度について実施につながる程度に至っているか判断しかねる。

(2)今後の取組に対する評価、留意点 (青:高い評価、赤:低い評価、緑:留意すべき事項)

- 概念的には理解し、高く評価はするが、コミュニティにおけるメタデータの標準化との関係、また、このレジストリーが具体的にどのように使われ、どのように役に立つのかということについてより具体的な説明が必要と思われる。例えば「隣の館との違い」が理解できたところで、メタデータの相互運用のためにこのレジストリーがどれだけ役に立つのかが具体的に示されないと、データを提供してくれるところがないのではないかと危惧する。
- メタデータ共有の社会的枠組みを作るべき。メタデータ利用促進をどう実現するかも考えて欲しい。国際連携:本システムは国内に閉じ込めるものではないはず。特定の国と戦略的提携等。
- メタデータ情報基盤システム「MetaBridge」を広く公開し、より多くの利用者からのフィードバックを得るべきである。また、メタデータ基盤協議会の持続的な運営をめざし、成果の普及・推進を促進すべきである。
- 2(次世代電子出版コンテンツID推進プロジェクト)とのコードとの連携がありうるのではないか。